新潟縣下の白化ツバメ

Record of albino *Hirundo rustica gutturalis* in Niigata Pref.

加 藤 忠 一

Chuichi Kato

ツバメの白化現象は稀であるが、筆者は1950年6月18日新潟縣東蒲原郡東川村の一農家に於て之を観察する事が出来た。

孵化後 13, 4 日を経過し巢内より体を乗り出す様になつて始めて白化せるもののある事が認められたが詳細なる観察は17, 8日目に行はれたのである。巢は薄暗い玄関の梁に掛けた台の上にあり、4羽の雛の中1羽が白化してゐた。色彩は腹部が普通のものの如くで頭部、背部、嘴、喉、尾羽、跗蹠等はわづかに灰色を帯びてはゐるが一見純白である。

動作は他の個体よりも活潑で探餌時など前半身が落下すると思はれる程乗出して鳴いてゐたが、観察当日午後他の個体に先立ちしきりに羽ばたきをし

新潟縣東川村に於ける白化ツバメ

た。当時行つた各部の測定は次の如くである。翼長102耗、嘴8耗、尾長20耗、体重21g。

Résumé

One of the four young of *Hirundo rustica gutturalis* hatched in early June, 1950 under the eaves of a farmer's house in the village of Higashikawa, Higashikanbara-Gun, Niigata Pref. was a complete albino except that head, back, throat, tail, bill and legs. showed a very faint grey.

コモ、ジロの繁殖観察

A Breeding Observation of the Eastern Great
White Egret, *Egretta alba modesta* (Gray)

小 林 平 一

Hirakazu Kobayashi

兵庫縣下に於ける鷺科の鳥類

兵庫縣下に於ては、地理的及び氣候的に好條件であるためか鷺科の鳥類の種類も個体数も非常に多い。

從來観察せられた此科の鳥類は、○アヲサギ、※クロサギ、○ゴイサギ、※ミゾゴイ、○ササゴイ、○ヨシゴイ、※オホヨシゴイ、○アマサギ、○コサギ、○チウサギ、○コモ、ジロ、アカガシラサギ（及びムラサキサギ？、ダイサギ？）である。

上記の内、ムラサキサギは筆者が昭和18年（1943）9月29日、自宅附近の稻田の畦上で幼期と思へる本種の一羽を50mの距離で双眼鏡で観察——本種の蕃殖地を考へて一寸不可解に思ふが甚しく赤褐色でアヲサギ及びその幼鳥とは全然異つてゐた。ダイサギは当地の筆者の知人がツルの如き大形の白サギを冬期銃獲したと（1947）当時の状況を筆者に語られたので本種以外にはない様に思われる。しかし此等は標本として確証出来ないので、？を附しておく次第である。

アカガシラサギは古い記録で迷鳥であるが、縣下神戸附近とのみあり明確